

地元大手企業との取引を中心に、さまざまな産業機械や工作機械などの高精度な部品加工を得意とする有本電器製作所では、65歳以上の社員が全体の約22%を占める。熟練工としての卓越した技術で、工場の運営を支え、段取り、メンテナンス、そして働むところと若手を凌駕する領域も多い。目覚ましい活躍にシニア人材への期待は大きい。

## 熟練工集団として 地域産業を支え続ける

社名 株式会社有本電器製作所  
所在地 新潟県加茂市寿町5-25  
電話 0256-52-1361  
HP arimoto-d.jp  
代表者 有本照一 代表取締役  
従業員 48人

### 有本電器製作所

新潟県加茂市

即戦力になるシニアは  
工場の原動力

北越の小京都と呼ばれる加茂市は、県下でも稀な複合産業の集積地だ。木工や繊維、電気器具や機械、金属、皮革製品、食品などの産業が栄えている。だが、少子高齢化の波は例外なく押し寄せ、近年は製造業も振るわない。

「若者も少ないですが、シニアも少ない地域です。工場集積地ですが、製造業は若者に人気がありません。この地域では、製造業で腕を鳴らしたシニアの方が、未経験の若手よりも引く手あまたと言えますね」。そう言って代表取締役の有本照一さんは苦笑する。

1950年創業の同社に、65年に大学卒業と同時に入ったというが、その頃は製造業に勢いがあった時代で、工場内も20代、30代の若者で活気があった。だが、今は55歳以上の社員が全体の約57%、65歳以上が約22%を占める。かつての若者が工場を支えている図式だ。「昨年まで80歳の女性社員がいましたし、今はパートで65歳の男性3人が働いています。働けるだけ働きたいと考えるシニアの受け皿になっていきます。こちらでも即戦力になるシニアは大歓迎です」。定年を迎え、その後、生活のり

## 特集1 高齢社員活用のススメ

# シニア人材活躍で 企業が若返る!?

慢性化する人手不足解消に向けて多様な方策が模索されている。特に中小企業が必要としている即戦力という意味では経験のあるシニア層（高齢者世代）が注目されている。そこで、65歳以上が活躍している企業の戦略と狙いを聞いた。シニアが安心して働ける会社には人が集まる！



そうに話して、有本さんは顔をほころばせる。

働きやすい環境づくりで  
作業効率と意欲を高める

有本電器製作所では産業機械や工作機械などの高精度部品加工や組み立てを行っており、加工作業は切削、研磨、溶接、レーザーやプレスなど多岐にわたる。さまざまなニーズに対応できる多品種少量生産体制をとっているが、その要となっているのがシニア人材だ。「若手社員よりも技術力はあるし、スピードも大差ありません。力仕事や今どきの機械操作は若手が担

ズムが狂って体調を崩したという他社での話や知人の姿を目にすることもあり、65歳の定年後も本人が希望すれば継続して働けるようにしているという。昇給や年2回のボーナスはないが給料は同額という条件を事前に説明し、本人の判断を仰ぐ。社員の平均年齢が上がることに危機感はなく、むしろ「今まで働いてくれた恩返しへの気持ちの方が強い」と言い切る。

十数年前に当時あった新潟県高齢者雇用開発協会から協会会長賞を受賞した時も、すでに社員の平均年齢は50歳だった。「社員が頑張ってくれたおかげ」と社員一人ひとりにリングを贈ったことを懐かし



▲1964年に移転した現工場は敷地面積4785㎡を有する。2003年にISO9001を取得